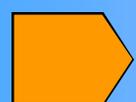




2019年3月期 第2四半期
決算補足資料

証券コード：6908
2018年11月2日
イリソ電子工業株式会社



-  I . 2019.3期 第2四半期連結決算概要
- II . 2019.3期 連結決算見通し

1. 2019年3月期第2四半期 業績のポイント



過去最高売上を更新し増収。営業利益は南通工場関連費用等で減益

- ・ 売上：車載市場のカーエレクトロニクス分野がADAS・電動化の進展を背景に伸長し、半期累計で過去最高売上を更新。
ただし、アメリカでの乗用車販売の低迷や安全系アプリケーションの装着率が当初見込みに届かなかったこと、欧州でのWLTP導入による自動車販売台数減少、中国でのスマートフォン向けの設備投資減少によるFA機器の需要鈍化等の影響で期初計画を若干下回った。
- ・ 利益：4月開業の南通工場関連費用が発生したこともあり、対前年同期比減益。
期初計画に対しては、売上が当初見込みを下回ったことにより南通工場での生産が減少し、下振れした。
営業利益率は南通工場関連費用を織り込み、前年同期比2.1ポイント減の16.9%
※南通工場関連費用：(18.3期2Q) 78百万円(売上比0.4%)→営業外費用に計上
(19.3期2Q) 256百万円(売上比1.2%)→営業費用に計上

【市場別】

- ・ 車載市場：ADASの進展により安全系(カメラ・レーダー)向けが約25%増加、
三次元可動BtoBコネクタ“Z-Move®”を含む電動車のパワートレイン系向けが約60%増加
- ・ インダストリアル市場：第2四半期からのFA機器の需要減があったものの増収を確保

【地域別】

- ・ アメリカ：セダンタイプの乗用車を中心とした新車販売の低迷によりAVN分野が減少
- ・ 中華・韓国圏：パワートレイン系向けを含むカーエレクトロニクス分野を中心に増収
- ・ 欧州：WLTP導入による自動車販売台数減少があるものの、カーエレクトロニクス分野の安全系向けを中心にカバーし増収

注：WLTPは、「国際調和排出ガス・燃費試験法」のこと

2. 2019年3月期第2四半期連結業績(前年同期比)



単位：百万円

	18.3期 第2四半期	19.3期 第2四半期	前年同期比
売上高	20,687	21,765	1,078 105.2%
営業利益	3,930 (19.0%)	3,674 (16.9%)	△255 93.5%
経常利益	3,867 (18.7%)	4,035 (18.5%)	168 104.4%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	2,862 (13.8%)	2,966 (13.6%)	104 103.6%
EPS	120.91円	125.48円	
為替レート 期中平均	ドル 111.42円 ユーロ 126.63円	110.07円 129.88円	△1.35円 3.25円



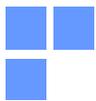
3. 売上高詳細(市場別)



単位：百万円

		19.3期 第2四半期	前年同期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		18,482	106.6%	84.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ ADASや電動化、電装化の進展を背景にエレクトロニクス分野が好調 ・ ADAS関連で安全系向けが前年同期比約125% ・ 電動化関連でパワートレイン系向けが前年同期比約150%
区分	AVN (カーAV、ナビゲーションシステム等)	8,400	99.5%	38.6%	
	エレクトロニクス (安全系、電装関連、駆動系等)	10,082	113.3%	46.3%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TV等)		2,145	94.8%	9.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム機向けを中心に減少
インダストリアル (産業機器等)		1,137	104.7%	5.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・ PLC、インバーター向け等が増加
合計		21,765	105.2%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外比率79.5%

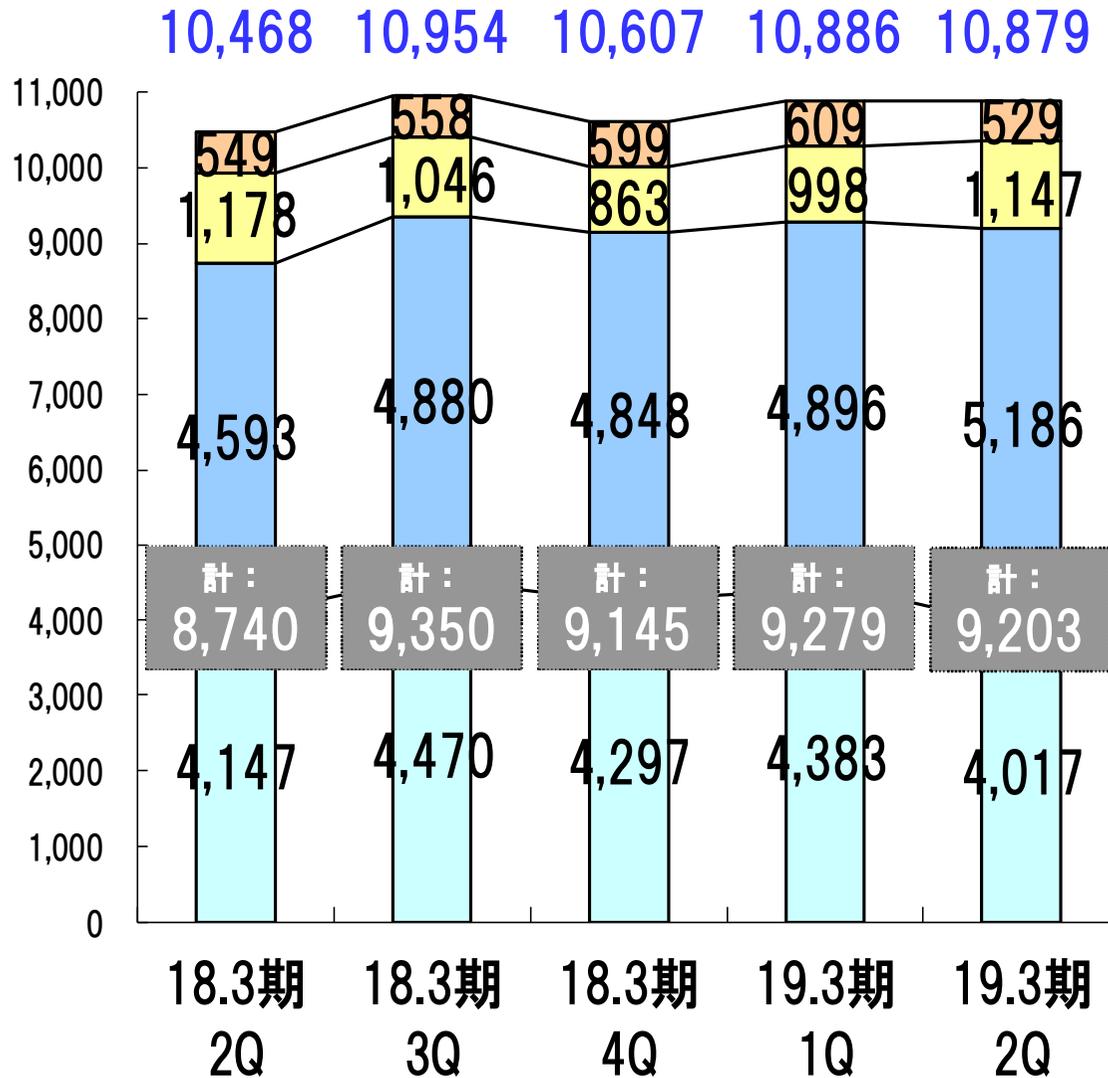
注：AVNIは、オーディオビジュアルナビゲーションの略で、カーオーディオ全般、ナビゲーションシステム等のこと



4. 市場別売上高(四半期推移)



単位：百万円



◆対18.3期2Q

インダストリアル
96.2%

コンシューマー
97.4%

車載
(エレ)
112.9%

車載
(全体)
105.3%

車載
(AVN)
96.9%

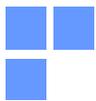
・中国でスマートフォン向けの設備投資が減少し、FA機器向けの需要が鈍化

・ゲーム機向けを中心に減少(対直前四半期比では増加)

・カーエレクトロニクス分野の最高売上更新。安全系とパワートレイン系向けが牽引

・カーAVN分野はアメリカの新車販売不振の影響もあり減少

□車載 (AVN) □車載 (エレクトロニクス) □コンシューマー □インダストリアル

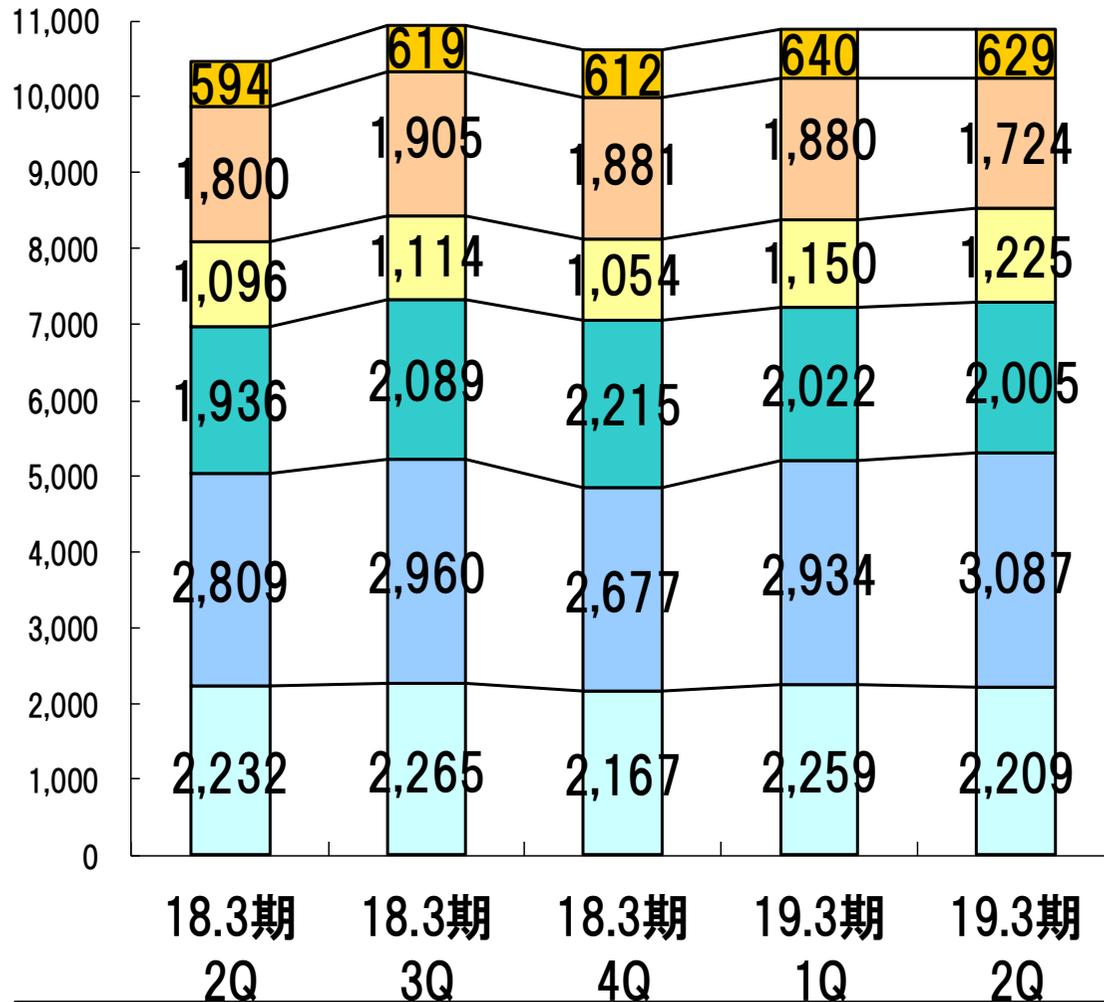


5. 地域別売上高(四半期推移)



単位：百万円

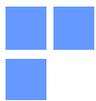
10,468 10,954 10,607 10,886 10,879



◆対18.3期2Q

- タイランド 106.0%**
 - ・車載市場が増加
- 米国 95.8%**
 - ・乗用車を中心とした新車販売不振の影響で減少
- シンガポール 111.8%**
 - ・カーエレクトロニクス分野が好調
- 欧州 103.6%**
 - ・WLTP導入影響で9月から悪化し、カーAVN分野で減少したが、安全系を中心に増加しカバー
- 中華・韓国圏 109.9%**
 - ・パワートレイン系向けを含むカーエレクトロニクス分野が好調
- 日本 99.0%**
 - ・カーエレクトロニクス分野で増加したが、カーAVN分野、インダストリアル市場で減少

□日本 □中華・韓国圏 □欧州 □シンガポール □米国 □タイランド



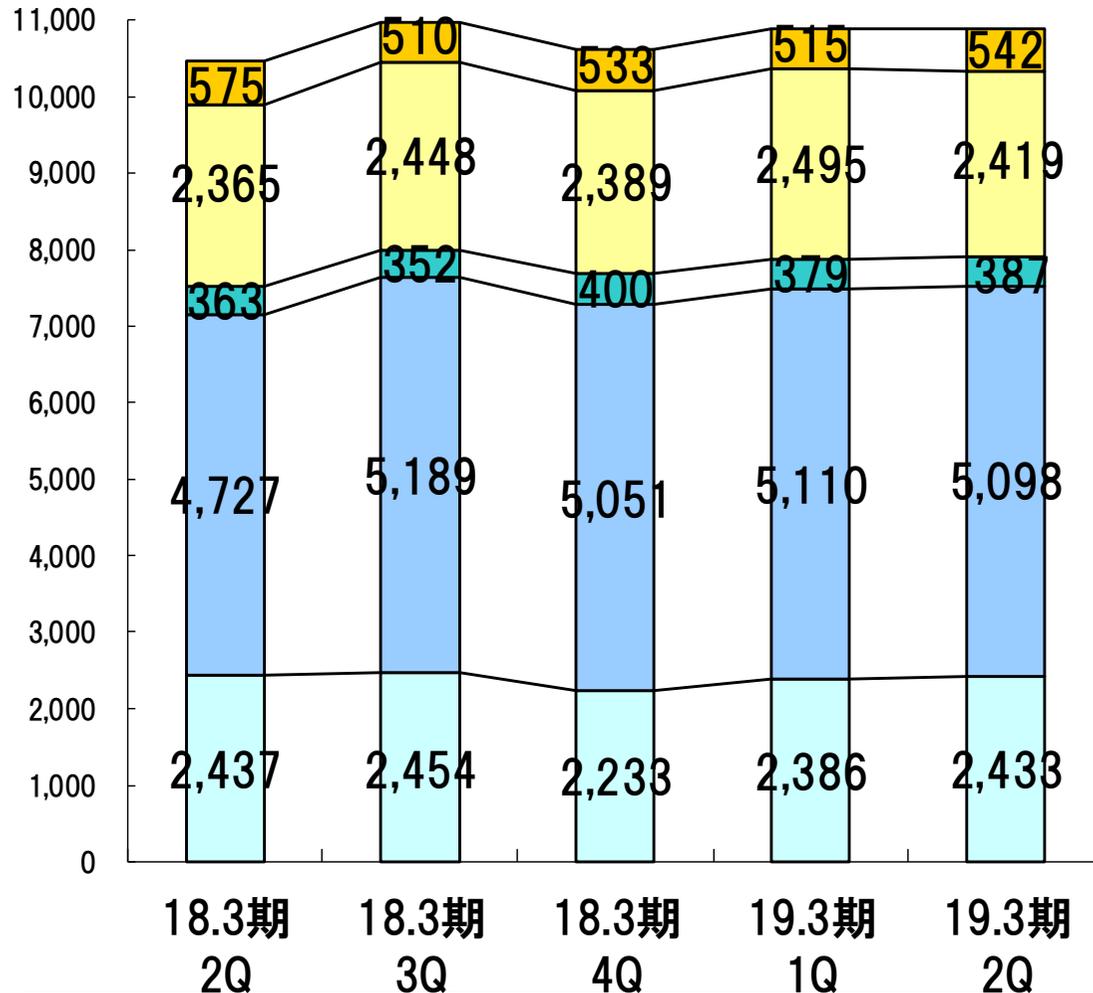
6. 製品別売上高(四半期推移)



単位：百万円

10,468 10,954 10,607 10,886 10,879

◆対18.3期2Q



その他
94.1%

車載IFコネクタ
102.3%

ピンヘッダー
106.6%

BtoBコネクタ
107.8%

FPCコネクタ
99.8%

・車載市場の増加



□FPC □B to B □ピンヘッダー □車載向けIF □その他

7. 損益計算書(連結)(前年同期比)



単位：百万円

	18.3期 第2四半期	19.3期 第2四半期	前年同期比
売上高	20,687 100.0%	21,765 100.0%	1,078 105.2%
売上原価	12,784 61.8%	13,670 62.8%	886 106.9%
売上総利益	7,902 38.2%	8,094 37.2%	191 102.4%
販売管理費	3,972 19.2%	4,419 20.3%	447 111.3%
営業利益	3,930 19.0%	3,674 16.9%	△255 93.5%
営業外収益	37 0.2%	390 1.8%	353 ¹⁰ 31.5%
営業外費用	100 0.5%	29 0.1%	△71 29.4%
経常利益	3,867 18.7%	4,035 18.5%	168 104.4%
特別損益	△49 △0.2%	△87 △0.4%	37 175.0%
税前利益	3,817 18.5%	3,948 18.1%	131 103.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,862 13.8%	2,966 13.6%	104 103.6%
E P S	120.91円	125.48円	-
為替レート (ドル/ユーロ)	111.42円/	110.07円/	△1.35円/
	126.63円	129.88円	3.25円



8. 貸借対照表(連結)(前期末比)



単位：百万円

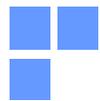
	18.3期	19.3期 第2四半期	前期末比	増減要因
流動資産	35,858 59.7%	35,215 58.2%	△642	現金及び預金△2,439 受取手形及び売掛金513 原材料及び貯蔵品406
固定資産	24,224 40.3%	25,278 41.8%	1,053	有形固定資産1,138
資産合計	60,083 100.0%	60,494 100.0%	410	
流動負債	10,046 16.7%	8,746 14.5%	△1,299	支払手形及び買掛金△726 未払法人税等△137 未払金△277
固定負債	753 1.3%	745 1.2%	△8	
負債合計	10,800 18.0%	9,492 15.7%	△1,307	
株主資本	47,482 79.0%	48,595 80.3%	1,112	利益剰余金1,782
その他の 包括利益累計額	1,530 2.6%	2,125 3.5%	594	為替換算調整勘定574
非支配株主持分	270 0.5%	281 0.5%	11	
純資産合計	49,283 82.0%	51,001 84.3%	1,718	1株純資産 2,152.21円 (前期末 1,998.71円)
負債・純資産 合計	60,083 100.0%	60,494 100.0%	410	

9. キャッシュフロー計算書(連結) (前年同期比)



単位：百万円

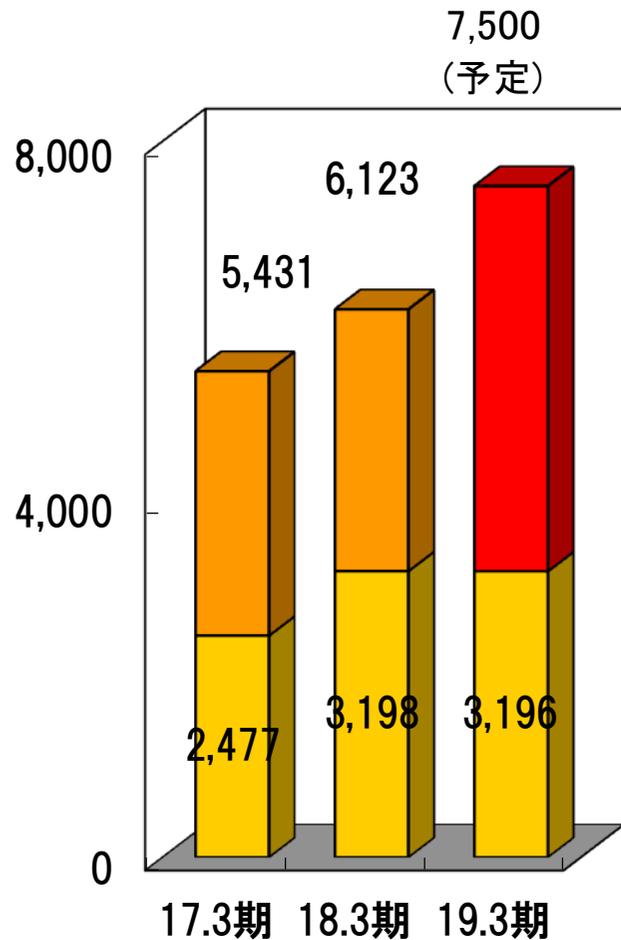
	18.3期 第2四半期	19.3期 第2四半期	増減
営業キャッシュフロー	4,436	2,503	△1,933
税金等調整前四半期純利益	3,817	3,948	1,310
売上債権増減（△は増加）	△723	△259	463
仕入債務増減（△は減少）	307	△949	△1,256
投資キャッシュフロー	△3,275	△3,235	39
有形固定資産の取得	△3,198	△3,196	2
無形固定資産の取得	△50	△17	32
財務キャッシュフロー	△743	△1,901	△1,157
短期借入金純増減	-	-	-
自己株式の取得による支出	△0	△669	△669
現金及び現金同等物に係る換算差額	164	194	30
現金及び現金同等物の増減	582	△2,439	△3,021
現金及び現金同等物の機首残高	15,242	17,352	2,110
現金及び現金同等物期末残	15,825	14,913	△911



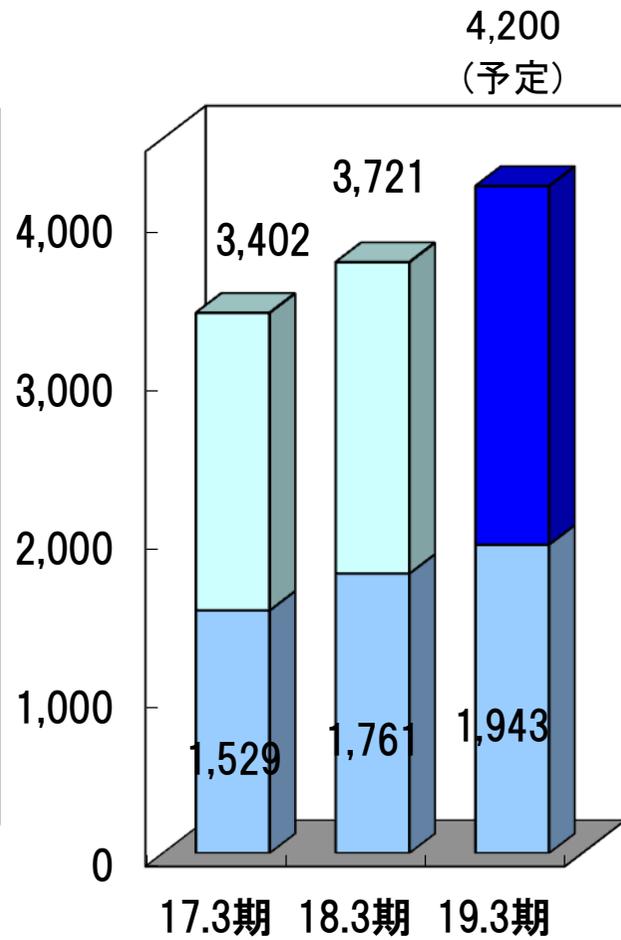
10. 設備投資・減価償却・研究開発



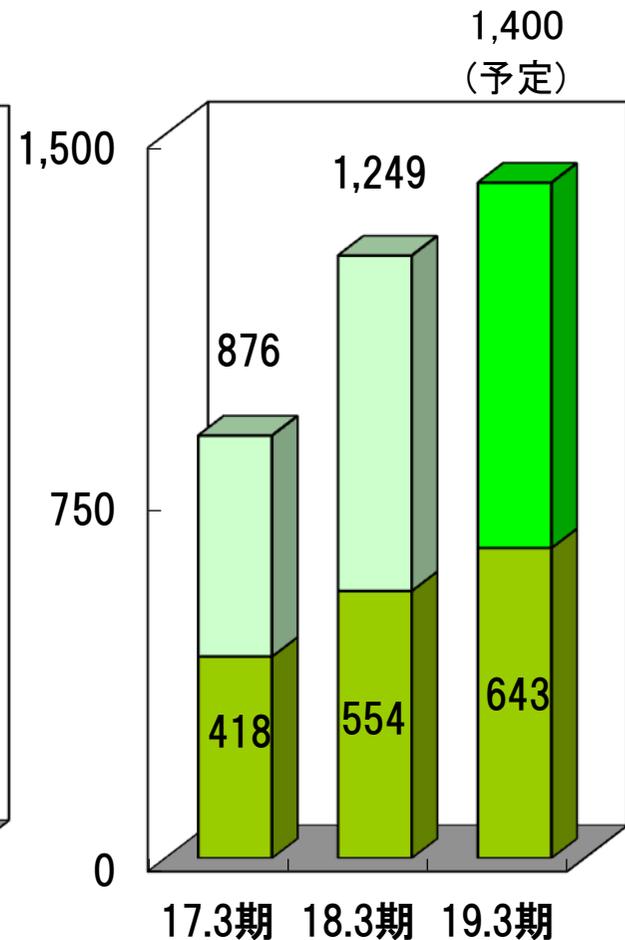
単位：百万円



設備投資



減価償却



研究開発

注：各グラフの数値は、下段に第2四半期累計の実績、上位に通期での実績(19.3期は予定)を記載



I . 2019.3期 第2四半期連結決算概要

 **II . 2019.3期 連結決算見通し**

1. 2019年3月期 計画(前期比)



単位：百万円

	18.3期 実績	19.3期 計画	前期比
売上高	42,248	45,500	3,251 107.7%
営業利益	8,426 (19.9%)	8,900 (19.6%)	473 105.6%
経常利益	7,872 (18.6%)	8,700 (19.1%)	827 110.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,456 (12.9%)	6,100 (13.4%)	643 111.8%
EPS	230.47円	257.67円	
為替レート 期中平均	ドル 110.81円 ユーロ 129.45円	105.00円 125.00円	△5.81円 △4.45円

注：米中間の関税問題に関して、現時点では当社業績への大きな影響はございません

2. 2019年3月期 下期重点活動

単位：百万円

- ・ 下期の売上は貿易摩擦の影響を含め不透明さはあるが、安全系及びパワートレイン系が牽引し、カーエレクトロニクス分野を中心に伸長する見通し。
- ・ 利益は追加の原価低減、経費の厳選実施を行うことで期初計画達成を図る

	19.3期 上期 実績	19.3期 下期 期初計画	19.3期 上期 実績 + 下期 期初計画	19.3期 通期 期初計画	差額
売上高	21,765	23,700	45,465	45,500	△35
営業利益	3,674 (16.9%)	4,850 (20.5%)	8,524 (18.8%)	8,900 (19.6%)	△376

	項目	利益	施策
営業利益 追加改善 計画	売上2億円積上げ	約1億円	採用確定案件のシェアアップ
	追加の原価低減	約2億円	部品の内製化 合理化設備前倒しによる労務費削減
	経費の厳選実施効果	約2億円	不要不急の経費支出の抑制

会 社 名	:	イリソ電子工業株式会社
事 業 内 容	:	各種コネクタの製造・販売
設 立 年 月	:	1966年（昭和41年）12月
社 員 数	:	3,367名（平成30年3月31日現在）
資 本 金	:	5,640百万円（平成30年3月31日現在）
本 社	:	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営 業 拠 点	:	
国 内		本社、岩手県、茨城県、愛知県、大阪府
海 外		シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶）、マレーシア、 台湾、インド
研 究 開 発	:	本社（イリソテクノロジーパーク）、 川崎（生産技術センター）、上海R&Dセンター
工 場	:	茨城県、中国（上海、南通）、フィリピン、 ベトナム（ハイズオン）

コネクタの種類

基板対基板コネクタ（BtoBコネクタ）

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ（ボードtoボードコネクタ）とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B（ビー・ツー・ビー）は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板（Flexible printed circuits）やFFCケーブル（Flexible flat cable）の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF（Zero insertion Force）タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O（インプット／アウトプット）コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面（裏・表面）に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン（電導体）”をハウジング（樹脂材でできた絶縁体）で支えたプラグ（オス側）コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続（基板間接続）に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。